

9. 參考資料

Reference

○弘前大学COC推進本部規程

(平成26年11月21日規程第78号)

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人弘前大学管理運営規則（平成16年規則第1号）第106条の2第2項の規定に基づき、COC推進本部（以下「本部」という。）に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 本部は、本学における地域活性化の中核的拠点としての機能強化を図るため、地（知）の拠点整備事業（以下「COC事業」という。）を総括し、当該事業を通じて地域を志向した大学改革を強力に推進することを目的とする。

(業務)

第3条 本部は、前条の目的を達成するため、COC事業に関する基本方針を決定するとともに、本事業を総括する。

(組織)

第4条 本部は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 理事
- (3) 各学部長及び研究科長
- (4) 学長が指名する副理事
- (5) その他学長が必要と認めた者

(本部長及び副本部長)

第5条 本部に、本部長を置き、学長をもって充てる。

2 本部長は、本部の業務を総括する。

3 本部に、副本部長を置き、本部長が指名する者をもって充てる。

4 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故があるときは、その職務を代理する。

(本部会議)

第6条 本部に、第3条に掲げる業務に関する事項を審議するため、COC推進本部会議（以下「本部会議」という。）を置く。

2 本部長は、本部会議を主宰し、その議長となる。

3 会議は、委員の過半数をもって成立する。

4 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 議長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(推進協議会)

第8条 本部に、COC事業の実施に関する各種提言を行うとともにCOC事業における成果等について評価を行うため、青森地域COC推進協議会（以下「推進協議会」という。）を置く。

2 推進協議会の組織、運営等に関し必要な事項は、別に定める。

(外部評価委員会)

第9条 本部に、COC事業に関して第三者による客観的な評価を行うため、COC外部

評価委員会を置く。

2 外部評価委員会の組織、運営等に関し必要な事項は、別に定める。

(COC推進室)

第10条 本部に、COC事業の実施及び連絡調整その他事業に必要な業務を行うため、COC推進室（以下「推進室」という。）を置く。

2 推進室の組織、運営等に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第11条 本部の庶務は、事務局関係各課等の協力を得て、学務部教務課において処理する。

(その他)

第12条 この規程に定めるもののほか、本部に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成26年11月21日から施行する。

○青森地域COC推進協議会要項

(平成26年11月21日学長裁定第19号)

第1 趣旨

この要項は、弘前大学COC推進本部規程（平成26年規程第78号）第8条第2項の規定に基づき、青森地域COC推進協議会（以下「推進協議会」という。）の組織、運営等に関し必要な事項を定める。

第2 組織

推進協議会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 理事
- (3) 学長が指名する副理事
- (4) 青森県知事
- (5) 弘前市長
- (6) 青森県内の企業関係団体の長
- (7) その他学長が必要と認めた者

第3 会長及び副会長

- 1 推進協議会に、会長を置き、学長をもって充てる。
- 2 会長は、推進協議会の業務を総括する。
- 3 推進協議会に、副会長を置き、会長が指名する委員をもって充てる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

第4 会議

- 1 会長は、会議を主宰し、その議長となる。
- 2 会議は、委員の過半数をもって成立する。
- 3 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第5 委員以外の出席

議長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

第6 PS協議会

- 1 推進協議会に、青森県、弘前市及び産業界の関係者等と専門的事項に関し協議を行うため、青森産官学人財育成パートナーシップ協議会（以下「PS協議会」という。）を置く。
- 2 PS協議会に関し必要な事項は、別に定める。

第7 その他

この要項に定めるもののほか、推進協議会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成26年11月21日から実施する。

○COC推進室要項

(平成26年11月21日学長裁定第21号)

改正 平成27年9月14日

第1 趣旨

この要項は、弘前大学COC推進本部規程（平成26年規程第78号）第10条第2項の規定に基づき、COC推進室の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

第2 組織

推進室は、次の各号に掲げる室員をもって組織する。

- (1) 理事（企画担当）
- (2) 学長が指名する副理事
- (3) 専任担当教員
- (4) 室長が指名する教員（以下「兼任担当教員」という。）
- (5) コーディネーター
- (6) 学務部長
- (7) 総務課長，財務企画課長，教務課長，研究推進課長及び社会連携課長
- (8) その他室長が必要と認めた者

第3 室長及び副室長

- 1 推進室に、室長を置き、理事（企画担当）をもって充てる。
- 2 室長は、推進室の業務を総括する。
- 3 推進室に、副室長を置き、室長が指名する者をもって充てる。
- 4 副室長は、室長を補佐し、室長に事故があるときは、その職務を代理する。

第4 兼任担当教員

兼任担当教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の兼任担当教員の任期は、前任者の残任期間とする。

第5 その他

この要項に定めるもののほか、推進室に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成26年11月21日から実施する。

附 則(平成27年9月14日)

- 1 この要項は、平成27年10月1日から実施する。
- 2 この要項の実施日の前日において現に兼任教員であって、かつ、当該任期の末日がこの要項の実施日以後である者のうち、実施日に兼任担当教員となる者の任期の末日については、改正後の第4の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

○青森産官学人財育成パートナーシップ協議会要項

(平成26年12月25日学長裁定第26号)

第1 趣旨

この要項は、青森地域COC推進協議会要項（平成26年学長裁定第19号）第6条第2項の規定に基づき、青森産官学人財育成パートナーシップ協議会（以下「PS協議会」という。）の組織、運営等に関し必要な事項を定める。

第2 活動

PS協議会は、大学と地域社会の連携に関する事項について自由闊達に議論し、COC推進に係るパートナーシップを構築する。

第3 委員

PS協議会は、次の各号に掲げる委員により構成する。

- (1) 学長が指名する弘前大学の職員
- (2) 青森県及び弘前市の自治体関係者
- (3) 青森県内の企業関係者
- (4) 青森県内の報道関係者
- (5) 青森県内の市民活動団体関係者
- (6) その他会長が必要と認めた者

第4 会長及び副会長

- 1 PS協議会に、会長を置き、学長が指名する者をもって充てる。
- 2 会長は、PS協議会の会務を総括する。
- 3 PS協議会に、副会長を置き、会長が指名する委員をもって充てる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

第5 会議

- 1 会長は、会議を主宰し、その議長となる。
- 2 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第6 委員以外の出席

会長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

第7 関連組織との連携

PS協議会は、COC事業に関連する組織等と必要に応じ連携・協力・調整するものとする。

第8 庶務

PS協議会の庶務は、事務局関係各課等の協力を得て、学務部教務課において処理する。

第9 その他

この要項に定めるもののほか、PS協議会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成26年12月25日から実施する。

○外部評価委員会要項

(平成26年11月21日規程第20号)

第1 趣旨

この要項は、弘前大学COC推進本部規程（平成26年規程第78号）第9条第2項の規定に基づき、外部評価委員会の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

第2 組織

外部評価委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係行政機関の代表者
- (3) 関係企業団体の代表者
- (4) 報道関係者
- (5) その他学長が必要と認めた者

第3 委員長及び副委員長

- 1 外部評価委員会に、委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。
- 2 委員長は、外部評価委員会の業務を総括する。
- 3 外部評価委員会に、副委員長を置き、委員長が指名する者をもって充てる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

第4 会議

- 1 委員長は、会議を主宰し、その議長となる。
- 2 会議は、委員の過半数をもって成立する。

第5 委員以外の出席

議長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

第6 その他

この要項に定めるもののほか、外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成26年11月21日から実施する。

COC推進本部会議 委員名簿

【平成28年2月1日 現在】

COC推進本部規程第4条	氏名	職名等
(1) 学長	佐藤 敬	
(2) 理事	吉澤 篤	理事(企画担当)
	加藤 健	理事(総務担当)
	伊藤 成治	理事(教育担当)
	郡 千寿子	理事(研究担当)
	大河原 隆	理事(社会連携担当)
(3) 各学部長及び研究科長	今井 正浩	人文学部長
	戸塚 学	教育学部長
	若林 孝一	医学研究科長
	木田 和幸	保健学研究科長
	宮永 崇史	理工学研究科長
	橋本 勝	農学生命科学部長
	北原 啓司	大学院地域社会研究科長
(4) 学長が指名する副理事	曾我 亨	副理事 人文学部教授
(5) その他学長が必要と認めた者	伊藤 康志	学務部長

青森地域COC推進協議会 委員名簿

【平成28年2月1日 現在】

氏 名	職 名 等
佐 藤 敬	弘前大学長
三 村 申 吾	青森県知事
葛 西 憲 之	弘前市長
吉 澤 篤	弘前大学理事(企画担当)
加 藤 健	弘前大学理事(総務担当)
伊 藤 成 治	弘前大学理事(教育担当)
郡 千寿子	弘前大学理事(研究担当)
大河原 隆	弘前大学理事(社会連携担当)
曾 我 亨	弘前大学副理事
若 井 敬一郎	青森県商工会議所連合会会長 (青森商工会議所会頭)
蝦 名 文 昭	青森県中小企業団体中央会会長
竹 林 秋 雄	青森県商工会連合会会長
沼 田 廣	(一社)青森県経営者協会会長
杉 本 康 雄	青森経済同友会代表幹事
東 康 夫	(一社)青森県工業会会長
永 澤 弘 夫	弘前商工会議所会頭
島 康 子	NPO法人ぶらっと下北代表
米 田 大 吉	NPO法人プラットフォームあおもり理事長

COC推進室 室員名簿

【平成28年3月1日 現在】

氏 名	職 名 等
吉 澤 篤	理事(企画担当)
曾 我 亨	副理事 人文学部 教授
西 村 君 平	COC推進室 助教
野 口 拓 郎	COC推進室 助教
伊 藤 康 志	学務部長
堀 内 昭 彦	総務課長
村 市 悟	財務企画課長
石 川 真 理	教務課長
長谷川 直 生	就職支援室長
古 舘 賢 樹	研究推進課長
小田桐 努	社会連携課長
小 山 宏	副理事
村 下 公 一	副理事 研究・イノベーション推進機構 教授
内 山 大 史	研究・イノベーション推進機構 教授
小 磯 重 隆	学生就職支援センター 准教授
吉 川 源 悟	COC+推進コーディネーター

青森産官学人財育成パートナーシップ協議会 委員名簿

【平成27年10月1日現在】

青森産官学人財育成 パートナーシップ協議会要項第3	氏 名	職名等
(1) 学長が指名する弘前大学の職員	曾 我 亨	(会長) 副理事
	小 磯 重 隆	(副会長) 学生就職支援センター 准教授
	内 山 大 史	研究・イノベーション推進機構 教授
	野 口 拓 郎	COC推進室 助教
	伊 藤 康 志	学務部長
	石 川 真 理	教務課長
	古 舘 賢 樹	研究推進課長
	小田桐 努	社会連携課長
(2) 青森県及び弘前市の自治体関係者	石戸谷 安信	青森県企画政策部企画調整課長
	山 本 昇	弘前市経営戦略部長
(3) 青森県内の企業関係者	櫻 庭 洋 一	青森県商工会議所連合会常任幹事
	橋 本 広 平	弘前商工会議所事務局長

青森産官学人財育成パートナーシップ協議会
ルーブリック・ポートフォリオ分科会 委員名簿

【平成27年4月1日現在】

氏 名	職名等
森 樹 男	(委員長) 人文学部 教授
石 川 隆 二	農学生命科学部 教授
高 島 克 史	人文学部 准教授
小 磯 重 隆	学生就職支援センター 准教授
西 村 君 平	COC推進室 助教
渡 部 靖 之	青森県教育庁生涯学習課 学校地域連携推進監・課長代理
大 浦 雅 勝	株式会社コンシス 代表取締役

青森産官学人財育成パートナーシップ協議会
地域特定プロジェクト志向専門人財育成プログラム分科会 委員名簿

【平成28年3月23日現在】

氏 名	職名等
石 塚 哉 史	(委員長) 農学生命科学部 准教授
前 田 智 雄	農学生命科学部 准教授
前 多 隼 人	農学生命科学部 助教
西 村 君 平	COC推進室 助教
辻 脇 悟 志	株式会社木村食品工業 執行役員 経営企画室長

COC外部評価委員会 委員名簿

【平成27年10月1日 現在】

氏 名	職 名 等
花 田 勝 美	青森中央学院大学長
大 坪 秀 一	八戸市総合政策部長
杉 山 大 幹	株式会社青森銀行取締役
成 田 昌 造	青森県高等学校長協会長
小 山 内 世 喜 子	青森県男女共同参画センター館長

■ 弘前大学COC事業新聞掲載記事

東奥日報 20面 (平成27年7月24日付)



学生県内就職率 どう向上

弘大COC事業 支援策を議論

弘前大学が行政、企業、NPO関係者をつくる「青森地域COC推進協議会」(会長・佐藤敬学長)は23日、同大で会合を開いた。大学が自治体と連携して地域の課題解決に取り組む「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」における、学生の県内就職率向上について議論した。

弘大はCOC事業で本年度、少数数グループで地域弘大のCOC事業について意見を交わした協議会

課題に取り組む「地域学ゼミナール」の試行をはじめ、地域課題をテーマにした研究への助成、学生と産官の共同海外研修・調査、起業家育成塾などを行っている。COC事業は2014、18年度までの5カ年計画。目標値の一つに県内就職希望率50%とあるが、13年10月の36・8%から、14年10月には31・9%と約5%低下し、委員からは「地元就職を支援するような企業情報を集めた就職サイトを作

って、学生に情報発信する取り組みも必要なのではないか」などの意見が出た。これに関し、弘大は現在、他大学・自治体・企業など100以上の団体と連携して、県内就職率向上に向けた具体的な取り組みを進める文科省の「COC+」に申請している。(佐藤彩乃)

取組みも必要なのではないか」などの意見が出た。これに関し、弘大は現在、他大学・自治体・企業など100以上の団体と連携して、県内就職率向上に向けた具体的な取り組みを進める文科省の「COC+」に申請している。(佐藤彩乃)

東奥日報社提供

カラス対策や人口減少問題

大学生が弘前市に政策提言一。弘前大学人文学部の専門科目「地域課題研究A」の学習成果発表会が29日、市役所で行われた。弘大生がカラス

対策や人口減少問題など弘前市の地域課題について、独自の調査で考えた解決策を市の担当課長や職員らに提案した。(成田真矢)

弘大生が市に政策提案 専門科目の学習成果発表



地域課題に独自案

同科目は文科省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の関連科目として、今年度初めて開講した。弘前市が直面する課題を発見し、現行施策の効果や限界を調査した上で、政策提案できる力を養うための地域志向型の授業。地域の課題解決を担う市職員のサポートを受け、人文学部2、4年生9人が3班に分かれて課題と解決策を探った。

発表会は▽弘前の古きを訪ね新しきを探す弘前市の地域課題について具体的な解決策を提案した学習成果発表会

▽学生発・弘前まちづくりカラス対策ときくらまつり魅力アップで市民も観光客もニコニコな弘前▽学生子育て支援プロジェクトと題して各班が発表。学生子育てでは、人口減少対策として学生による子育て支援を提案。弘前市内で実施した子育て世帯対象のヒアリング調査で、子どもも保護者も参加可能な学生主体のイベントへのニーズがあったことを示した。

市職員らは学生の調査結果や提案に感心しきりの様子で聞き入っていた。同科目の担当教員である金目哲郎准教授は「課題の発見から学生たちに探ってもらった。自主的にヒアリングを行うなどして地域のことを考えた政策を提案し、学生の底力を感じた」と話した。

陸奥新報社提供

「天妃様」アピール／函館でCM

台湾から観光客呼ぼう

弘大生がアイデア発表

大 間

キャッチフレーズは「大間行こうと!!」。弘前大学の学生4人が、大間町に台湾人観光客を誘致する「地域交流人口増加プロジェクト」に取り組み14日、誘客に向けたアイデアを地元関係者に発表した。大間で信仰される海上守護の女神「天妃様」や大間マグロなどの地域資源を生かし、企画を練り上げた。

大学が地域と連携して課題解決に取り組む「大学COO事業」の一環。まちおこしゲリラ「あおぞら組」の島康子前組長が弘大COO推進室で外部委員を務める縁で、大間をプロジェクト対象に選定した。

4人は人文学部の1、2年生。定期航空便があり、年間約22万人の台湾人観光

客が訪れる北海道函館市と大間で12、13日、観光客らに聞き取りし、台湾人の観光・消費動向などを調査した。おおま温泉海峡保養センターでの発表会には金澤満春町長や観光関係者など約20人が出席した。



「天妃様」を生かした台湾人観光客誘致を提案した弘大の学生たち。左は島さん

学生たちは、台湾と大間に共通する天妃様信仰に着目し、天妃様グッズの販売や、天妃様を守護する「三太子」をイメージしたオリジナルグッズによるおもてなしを提案。台湾人向けに

大間のCMを函館で流したり、ホームページや街路標識の充実といった環境整備の必要性も強調した。

キャッチフレーズは女神の天妃様にちなみ「オー・マイ・ゴッド(神)」にかけた。2年の伊藤久康さんは「既に大間にある(天妃様やマグロなどの)魅力を台湾人目線に沿って生かしていきたい」と述べた。

大間町にとって、函館を訪れる台湾人客の誘致は、大間―函館フェリー航路の維持に向けた大きな課題。金澤町長は「われわれの発想とは違う話聞いた。提案してもらったもの一つでも実現できるよう、頑張りたい」と刺激を受けた様子だった。(都築理)

学生が地域政策提案

弘大人文新 教員と自治体職員が共同講義



経済学を学ぶ弘大人文学部生が、弘前市の課題について政策提案した新科目「自治体政策研究」

弘大は文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されたことを受け、地域志向科目の増設を目標に設定。また、求春人文社会科学部へと学部再編する人文学部では、地域の政策課題などの解決に重点を置いた実践型教育にも力を入れている。

自治体政策研究は経済学・法学コースの選択科目として新設で同コースの2、4年生9人が履修。同科目の担当である飯島裕胤教授によれば、自治体関係者による授業科目は多くの大学で実施されて

課題解決へ知見を応用

「地域志向」大学を旨とする弘前大学では、地域に根差したさまざまな教育・研究が新設、試行されている。10月から履修が始まった人文学部の選択科目「自治体政策研究」もその一つで、自治体が抱える課題について大学が知的資源を活用して解決策を探っている。29日は、弘前市が課題として掲げた結婚や出産の促進に関する政策を学生たちが経済学の知見から提案。学生からは「弘前に多少なりとも貢献でき誇りに思う」との声もあり、地域活性化の人材育成に加え、学生自身の地域への関心にもつながっている。

(成田真矢)

弘大は文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されたことを受け、地域志向科目の増設を目標に設定。また、求春人文社会科学部へと学部再編する人文学部では、地域の政策課題などの解決に重点を置いた実践型教育にも力を入れている。

29日は、弘前市が課題として掲げた▽参画し、制度▽若いうちに結婚や出産について考え、二つについて、学生が2グループに分かれて具体的な政策を提案。高校・大学生を対象にしたセミナーの開催や、類似した水準の男女を対象にして出会いの場を創出するなどの案を、アンケートなど

陸奥新報社提供

「これまで大学の講義を通して抱いた自分の考えを社会に伝える場はなかったが、この講義で政策を提案でき、自分たちも弘前の政策に「役買」しているのには「誇りに思う。出産や結婚について講義を通して調べているうちに、自分でも深く考える機会にもなった」と話した。

「客観的なデータを交えながら発表した。3コマ目に真実案をグループ発表する。」
2年藤澤奈也さんは「これまでに大学の講義を通して抱いた自分の考えを社会に伝える場はなかったが、この講義で政策を提案でき、自分たちも弘前の政策に「役買」しているのには「誇りに思う。出産や結婚について講義を通して調べているうちに、自分でも深く考える機会にもなった」と話した。

旧蔵資料保存・活用へ

旧小川原湖民俗博物館

弘大生ら現状確認

三 沢

旧小川原湖民俗博物館(三沢市・星野リゾート青森屋敷地内)に収蔵されていた民俗資料の保存・活用を探ろうと、弘前大学の学生たちが28日、同市で保管されている旧蔵資料の現状を確認した。弘大の三沢市民具保存・活用プロジェクトの一環で、12月12日に弘大で開く成果報告会で学生たちが保存・活用のアイデアを提案する。プロジェクトは文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学C O C事業)」を活用して実施。

28日は弘大人文学部や弘大グリーンカレッジから学生7人が参加。国立歴史民俗博物館(千葉県)の川村清志准教授、葉山茂特任助教らも駆け付けた。参加者は旧蔵資料を科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学C O C事業)」を活用し、文化振興係の長尾正義係長らが民俗資料の保管状況や、同ホテルで保管する資料を3年をめどに他へ移す必要があることを解説した。

弘大人文学部3年の佐藤美香さんは「残されてきた大量の民具が捨てられることになるのはもったいない。活用する手段を見つける機会になれば」と熱心に資料を見つめた。同学部の山田巖子教授は「このプロジェクト

三沢市内の施設に保管されている旧小川原湖民俗博物館の民俗資料について理解を深める学生ら。28日午後1時30分ごろ、六川目団体活動センター



トで学生たちに民俗資料の価値や意味を知ってもらいたい」と期待。また「旧蔵の資料には採集場所や大きさの示した資料が残っており、学術的な価値も登録有形民俗文化財の制度を使うのも今後の一つの手段だと思つ」と話した。

(成田真矢)

陸奥新報社提供

西目屋村のケーブルテレビで弘大生 番組制作通じ魅力発見

COC事業 成果報告会 活性化策など提案



西目屋村のケーブルテレビ番組製作を通じて考えた地域活性化の方策などを提案した報告会

弘前大学生が西目屋村のケーブルテレビ番組製作するプロジェクト「テレビ番組つくってみます?」の成果報告会が23日、弘大で開かれた。弘大生8人が村の魅力伝える番組製作。21日に村内で放映された。プロジェクトの最終回となる報告会では、弘大生が番組づくりを通じて感じた課題や、村の地域活性化に向けたアイデアなどを発表し合った。

(成田真矢)

プロジェクトは文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の一環。「いつ・もの・こと目屋新聞」を製作する工藤健さんを講師に迎えて実施した。西目屋村は全世帯にケーブルテレビが整備されているが、動画配信が無いのが現状だ。「西目屋村にも魅力的な地域の番組を」とい

ある鷹ノ巣自然歩道と民具などを展示する中央公民館内の奥目屋風土回廊を、個性を生かしたトークや掛け合いで軽快に紹介。村民にも出演してもらい、地域を巻き込んだローカル番組製作した。報告会では、ロケを通じて感じた村の魅力や課題から、地域活性化の方策を提案。炭小屋を活用したピザ焼き体験ツアーや、村の食材や家庭料理に関する番組製作、村と隣の地域である弘前市東目屋と合同の雪祭りなどユニークなアイデアの数々を出し合った。人文学部3年の伊藤拓也さんは「番組製作はビジネスモデルとしてやっていかないと続かない。有志による番組の製作・放送で毎回見てもらえるリピーターを創出し、ネット配信するなどして取り組みの認知に努め、西目屋テレビをブランド化しては」と村のケーブルテレビ番組の今後について考えを述べた。

陸奥新報社提供

■ 高橋克彦氏講演会「北の炎」 チラシ

国立大学法人弘前大学 特別講演会

北の炎

作家 高橋克彦氏 講演会

1983年に「写家殺人事件」で江戸川乱歩賞を受賞しデビュー。SF伝奇小説「竜の軌」や歴史小説「炎立つ」「火忍」のほか、ホラー、ミステリー、時代小説など、幅広いジャンルで活躍している。

平成27年
5月22日(金)
12時40分～14時10分
弘前大学創立50周年記念会館
みちのくホール
定日に連し次第、入場を制限させていただきます。
入場無料 事前申込不要
弘前大学学生・教職員 対象

主催 国立大学法人弘前大学

地(知)の拠点
平成26年度採択 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」

国立大学法人弘前大学 特別講演会

高橋克彦氏講演会 ー北の炎ー

講師 プロフィール

高橋 克彦氏 Katsuhiko Takahashi

昭和二十二年、岩手県釜石市生まれ。
早稲田大学商学部卒業後、浮世絵研究に没頭。
昭和五十二年、初めての著作となる「浮世絵鑑賞事典」を出版。
昭和五十八年、「写家殺人事件」で第二十九回江戸川乱歩賞を受賞して作家デビュー。
昭和六十二年、「北新殺人事件」で第七回古川英治文学新人賞。
昭和六十二年、「北新殺人事件」で第四十回日本推理作家協会賞。
平成四年、「鱒い記憶」で第四六回道木賞。
平成十二年、「火忍」で第三十四回古川英治文学賞。
平成二十四年には、わが国のミステリー文学の発展に著しく寄与した功績により、第十五回日本ミステリー大賞を受賞。
平成二十五年、第二回歴史時代小説栄誉功労賞。「炎立つ」と「狩原」はNHK大河ドラマの原作を手がけた。
平成二十四年には、第五十三回NHK放送文化賞と若手日本文学賞を受賞している。
歴史小説、時代小説、ホラー、SF、伝奇、ミステリーと、エンタテインメントのあらゆるジャンルを手がけ、著書は五百十冊を超える。受賞作以外にも「竜の軌」「ドールズ」「筋丸九郎」「風の陣」「別荘屋」「完結部広目手控」「だまし及殺妻」「天を衝く」など多くの代表作を持つ。
盛岡市在住。

講演会 会場
弘前大学創立50周年記念会館 みちのくホール

注意事項

- 座席数に限りがありますので、定員に達し次第、入場を制限させていただきます。ご了承ください。
- 講演中は、携帯電話・スマートフォンの電源をお切りください。
- 講演中の撮影・録音・録音は禁止とさせていただきます。
- 会場内での飲食はご遠慮ください。

お問い合わせ先
弘前大学 総務部総務課
TEL 0172-39-3089
FAX 0172-39-3001
Mail jm3004@hirosaki-u.ac.jp

■ 弘前大学グリーンカレッジ チラシ

弘前大学が行う大学開放

地(知)の拠点

弘前大学が、あなたの「学びたい」を実現します。

弘前大学 グリーンカレッジ

平成27年10月より開校 第一期生募集!!

弘前大学グリーンカレッジへようこそ

募集説明会のお知らせ

募集に先立って、下記の日程で募集説明会を開催します。

日時：平成27年7月10日(金) 10:30～
場所：弘前大学附属図書館3F ラーニングコモンズ
ご来場の際は、公民館連絡帳をご持参下さい。
バス：弘前駅前3番のりば小栗山線「弘前大学前」下車

このたび、弘前大学では、地域のみなさんの「学びたい」や学生と一緒にサークル活動などキャンパスライフを過ごしていただく場として、「弘前大学グリーンカレッジ」を開校いたします。

地域のみなさんとのご共学・交流が本学学生にとって大きな刺激になるものと期待しております。

弘前大学で、若い学生とともに大学の垣を越えて学びませんか。この秋にキャンパスでお会いできることを楽しみにしております。

弘前大学 学術部教務課 佐藤 敬

GREEN COLLEGE

弘前大学グリーンカレッジについてのお問い合わせ、お申込みは
弘前大学 学術部教務課 事務企画担当 TEL: 0172-39-3709
TEL: 0172-39-3709 弘前大学教務課 事務企画担当 Mail: jm2100@hrosaki-u.ac.jp

「学びたい」に応える、8分野の授業科目。

1科目は、1授業(90分)×15回です。本学学生と一緒に受講します。

<p>「人文知」へのアプローチ</p> <p>長い年月をかけて培われた「英知」の結晶にふれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 言語学 国語学(漢字・仮名・方言) ■ 日本語学 縄文文化と社会の多様性 ■ 民俗学 民俗学の前説の説明と研究史 	<p>art を体感する</p> <p>芸術を感じる心、それは人が人であることの証。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 音楽入門 音楽史:イタリヤ美術史 ■ コンピュータグラフィックス:2次元CGの基礎・技術 ■ 美術実技・造形 石彫・陶芸・彫刻 ■ 美術鑑賞:日本画・西洋画
<p>経済とビジネス</p> <p>現代社会をリードする、経済活動の動きを捉む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ グローバル経営 日本企業の海外進出 ■ 企業経営 日本企業史(012企業を中心に) ■ 企業経営 地域企業の経営と地域ブランド 	<p>教育:人を育む</p> <p>子供・青少年の「こころ」と「体(からだ)」。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 青少年問題 青少年と学校、仕事 ■ 子供の健康 健康、肥満と運動
<p>からだ・健康</p> <p>わたし自身と家族を守るために、必要な知識を。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 女性の健康 女性としての身体機能、母子保健 ■ 救急災害・医学 救急医学史と救急医療体制 	<p>もう一度「科学」</p> <p>日常では学ぶことが難しい、科学の世界へ再び。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 理科の基礎 自然現象の構造と合成 ■ 地学の基礎 火山・地震・気象/地球の活動・地層の形成と進化 ■ 自然地理学 身近にある地形・東北地方の地形
<p>「農」を考える</p> <p>わたしたちにとって必要不可欠な、生命のみなもと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 農林と社会 食、食料、農業政策 ■ 農業気象学 農地と気象環境 ■ 農村計画 農村文化・農村計画 	<p>コミュニティ・デザイン</p> <p>「人と人とのつながり」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 都市計画 地方都市と都市政策 ■ 園芸学 園芸の活性化・まちづくり

文化の街 弘前で、豊かなキャンパスライフを。

第一期生は入校料及び受講料(平成27年度後期分)は無料です(モニター生としてアンケートなどに協力いただきます)。

カレッジ入校から修了まで

【申込方法】 入校を希望する方は、前定の申込書に記入の上、本学に郵送にて提出してください。募集案内・申込書は、募集説明会にて配布するほか、本学ウェブサイトよりダウンロードできます。

【入校決定】 申込期限：平成27年8月21日(金)まで
面談及びレポート(志望動機)などを参考に、入校を決定します。

【授業開始】 平成27年10月1日(木)

【修了】 カレッジ学期(前期および後期)において、開校科目をそれぞれ1科目以上受講し、修了すること。

■ 地域交流人口増加プロジェクト in 大間町 チラシ

地(知)の拠点
地域交流人口増加プロジェクト in 大間町
参加者募集

9.11金 - 15火
 弘前大学各学部1・2年生 対象

特別講師
 そうよ私はマグロー女子
 しほ
島 康子
 やまこ
 NPO法人らっつと下町代表
 青森県大間町生まれ。
 弘前大学卒業後、東京、仙台での
 企業経営やNPO活動などを経て、
 大間町に帰郷。現在はマグロー女子
 代表として、大間町の魅力を発信
 する活動を行っている。

■参加者は、学生教育研究災害備保険(学研災)等に
 加入する(している)必要があります。
 ■交通費: 宿泊費の一部を弘前大学が負担し、学生個人の負担額が最大
 でも5,000円程度におさまりますよ!お問い合わせください。
 詳細は申込先へお尋ねください。

申込方法 下記メールアドレスに連絡 または
 総合教育棟110号室まで申込用紙を提出
 申込締切 平成27年9月8日(水)まで

【問合せ・申込先】 弘前大学COC推進室(西村)
 TEL 0172-39-3863 / k-nishi@hirosaki-u.ac.jp

【主催】 弘前大学 COC 検索

なびなびや
 守れ!大間函館航路

地域交流人口増加プロジェクト in 大間町

プロジェクト概要 | About

大間町は本州最北端の小島です。病院に行くにも買い物に行くにも、函館市へのアクセスとなる大間函館航路は大間町にとってはなくてはならない存在です。しかし、大間町長の利用だけでは、十分な利益は出ません。大間函館航路が持続可能な航路として残っていくためには、もっとたくさんの人にフェリーを使ってもらわないと、「町長」の足は足りなくなってしまいます。

こうした問題意識のもとで、今回、NPO法人らっつと下町代表島康子氏と弘前大学COC推進室が連携して「函館に来る台湾からの観光客を呼び込んで、大間町長の生活圏拡大(大間函館航路)をやる」という取組に取り組むことになりました。

近年、海外、特に台湾では観光客が大きなブームとなっています。函館を訪れている台湾からの観光客の増加が、下北半島全体の宿泊客を増やしているとも言われています。その1%でも海を渡ってこれれば、経済効果は大きいのです。

しかし、どうすれば台湾からの観光客が大間町に滞在を持ってこれるのか、大間町を楽しんでくれるのか、その手からはまだつかめていません。

そこで今回、大間町を舞台にした地域交流人口増加プロジェクトへの学生の協力を募集することにしました。もしこの企画に関して興味を持ってくれた学生がいれば、是非とも、この地域交流人口増加プロジェクトに参加してください。

特に、公共機関の経営に関心のある学生、観光業界・広告業界に関心のある学生、地域活性化に関心のある学生を募集しています。

【ラムダプロジェクト-津軽海峡交通圏の形成をめざして-】
 現在、青森県ではラムダプロジェクトと呼ばれる交流人口増加プロジェクトが進められています。このプロジェクトは、青森県全域と函館市を中心とする津軽地域とを「A」型のエリアと捉えて、エリア内部での交流人口・エリア外からの交流人口を増加させていくというものです。大間町は下北半島の最北端に位置し、函館-大間をつなぐフェリー航路を有しており、ラムダプロジェクトの拠点の一つとなっています。

進行スケジュール | Schedule

9月11日(金)
弘前大学内にてガイダンス
 弘前大学内にて地域交流人口増加プロジェクトの政策的背景、大間町・函館市の現状、島康子氏とNPO法人らっつと下町のこれまでの取り組み、現在の課題について学修し、12日以降の調査プランを作成します。

9月12日(土)・13日(日)
函館市・大間町にて現地調査
 12日は函館市に、13日は大間町に移動して、現地で台湾からの観光客を函館市から大間町へと引き入れるための方法を調査・考察します。
 大間町から函館市へ来るのか、もしそうすれば大間町にも来るようになるのか、フィールドワークやインタビューを通して検討して、企画をまとめていきます。
 12日は函館市、13日・14日は大間町のホテル等に宿泊する予定です。

9月14日(月)
大間町にて成果発表
 14日は大間町でのプレゼンテーションを実施します。大間町長の方々と相手し、自分たちの企画を発表し、町民の方々とフィードバックをもらいます。
 15日の朝に大間町を出発し、弘前大学まで帰ります。

本プロジェクトの効果
 本プロジェクトを通して、参加学生には1) 地域の現状と課題を学ぶ、2) 地域振興の企画運営のノウハウを学ぶ、3) 大学の留学とは一味違う「本場の地域課題」に触れるといった学習効果が得られると期待されます。プロジェクトにおける学生の学修過程や結果については、COC推進室・西村の方ととりまとめ、参加した学生にフィードバックします。学生には、交流人口増加プロジェクトの成功だけに集中して、全力を尽くして欲しいと考えています。

地(知)の拠点
 弘前大学の「青森ブランドの価値を創る地域人財の育成」は平成26年度の文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されました。
 平成26年度の文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されました。

■ 西目屋村 地域メディア魅力向上プロジェクト チラシ

地域教育プロジェクト Vol.2
西目屋村 地域メディア魅力向上プロジェクト

テレビ番組
 つくってみます?

募集

【特別講師・番組制作協力者】
工藤 健
 (「いつ・もの・こと自展新聞」編集者)

【参加対象者】
 弘前大学に所属する学生
 ■ 参加者は学生教育研究災害備保険(学研災)等に加入する(している)必要があります。
 ■ 交通費は弘前大学が負担します。

【ガイダンス開催日】
 平成27年 11月19日(木) 12時~13時
 場所: 総合教育棟207

【申込み方法】
 下記メールアドレスに連絡 締め切り: 11月17日(火)

【申込先】
 COC推進室(野口) nosuchi@hirosaki-u.ac.jp

【本プロジェクトに対する質問・相談】
 COC推進室(西村) 0172-39-3863

工藤氏プロフィール
 36歳、弘前市在住。2012年に東京都から弘前市に引っ越し。
 「いつ・もの・こと」はご近所の井戸端会議や回覧板で話題になりそうな「いつもの」の日常をテーマにした地域メディアで、地域のコミュニケーションを豊かにし、人々の絆を育もうとするものです。

地域教育プロジェクト Vol.2 in 西目屋村

プロジェクト概要

西目屋村は弘前市の西側に位置する人口1500の小さな村です。世界遺産である白神山地の玄関口であることで知られ、世界に誇る大自然が広がる美しい村でもあります。

近年、西目屋村の全世帯にケーブルテレビ「西目屋テレビ(11ch)」が整備されました。

本来、ケーブルテレビは住民に向けて地域の魅力や取り組みを伝えられる貴重なメディアの一つとして位置づけられています。

しかし、今現在、西目屋テレビでは文字だけの案内が中心となり、動画の配信においてほとんどできないのが現状です。

「西目屋村にも魅力的な地域の番組を!」という声から話が、弘前大学がこれに協力する形で、本プロジェクトが始まりました。

もしこの話を聞いて興味を持ってくれた学生がいれば、是非とも、このプロジェクトに参加してください。特に、メディア関係や観光業界、地域活性化に関心のある学生を募集しています。

番組制作というミッションにはなりません。特別な経験やスキルは求められません。どなたでも安心して参加ください。

進行スケジュール ※スケジュールは相継次で搬送が効きます

11月19日(木)
弘前大学内にてガイダンス
 弘前大学内にて、地域教育プロジェクトの背景、西目屋村の現状、工藤氏の西目屋村との関わりなどを学修し、19日以降の取材プランを作成します。

11月20日~29日
西目屋村にて取材
 工藤氏のサポートのもと、西目屋村に住むの方や自然や史跡等の取材をおこなっていただきます。
 現地の取材はこの期間の1日のみとなります。

11月30日~12月中旬
編集作業&放映
 取材の振り返りをワークショップ形式で開催し1日のみ、番組をブラッシュアップしていきます。
 完成された番組は、12月中旬頃に村内で放映されます。

12月中旬
弘前大学にて成果報告会
 学内にて成果報告会を開催します。報告会終了後は、懇親会を予定しております。
 後日、成果報告書の執筆に協力いただき、本プロジェクトは終了となります。

地(知)の拠点
 弘前大学の「青森ブランドの価値を創る地域人財の育成」は平成26年度の文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されました。

■ 三沢市 民具保存・活用プロジェクト チラシ

地域教育プロジェクト Vol.3
三沢市 民具保存・活用プロジェクト

**残そう！
南部の民具を次世代へ**



急募

【参加対象者】
弘前大学に所属する学生
■ 参加者は学生教育研究災害備蓄保険（学研災）等に加入する（している）必要があります。
■ 交通費は弘前大学が負担します

【講師】
山田 巖子 教授
(弘前大学人文学部)

【第1回ワークショップ「民具に触れる」開催日】
平成27年 11月20日（金）15時～17時
集合場所：弘前大学資料館

【申込み方法】
下記メールアドレスに連絡 締め切り：11月18日（水）

【申込先】
COC推進室（野口） noguchi@hirosaki-u.ac.jp

【本プロジェクトに対しての質問・相談】
COC推進室（西村） 0172-39-3863

プロジェクトに対する想い
小川原湖民俗博物館の民具は、南部の生活の姿を知る上で、欠かすことのできない圧倒的な資料です。
資料としての価値を講ずることなく、次の世代に伝えるために、学生の立場から一緒に考えましょう。

地(知)の拠点

地域教育プロジェクト Vol.3 in 三沢市

プロジェクト概要

小川原湖民俗博物館（青森県三沢市）は、温泉の付属博物館でしたが、経営者交代後に閉館され、今年4月20日に解体が始まりました。
その際、民具救出に駆けつけたボランティアの中には、博物館内の民家の搬入作業を手伝った方もいて、「二度と手に入らないのに…」と嘆いていたそうです。作業は短い、ライトをつけたら行われ、余裕もないままダンボールに入れられました。
国・県・市有形民俗文化財に指定されているものは博物館などに移蔵され、残りの資料のうち300点が弘前大学に運ばれてきました。
このままでは、青森県の貴重な文化財が失われてしまう可能性があります。このような節度は、日本全体で表面化してきているのも事実で、もはや青森県だけの問題ではありません。
もしこの話を聞いて興味を持ってくださった学生がいれば、是非とも、このプロジェクトに参加してください。特に、公務員、学芸員、教員、地域活性化に関心のある学生を募集しております。
民具の利活用を考えるミッションにはなりますが、特別な経験やスキルは求められておりません。どなたでも安心して参加ください。

民具救出の様子

進行スケジュール ※スケジュールは相順次第で融通が効きます

11月20日（金） ワークショップ「民具に触れる」 弘前大学にて	弘前大学資料館にて、実際の民具に触れ、その形、手触り、歴史を学びます。（ワークショップ後に簡単な会食も予定されています。）
11月28日（土） 三沢市にてフィールドワーク	民具活用のヒントを探すために、旧小川原湖博物館の跡地を見学したり、元・学芸員の方、三沢市教育委員会の方にお話を伺います。
11月29日～12月11日 グループワーク	11月29日～12月11日の間に、COC推進室の教員の支援のもとで、民具保存・活用のアイデアを、企画の形にまとめます。実際のグループで作業は2回、各1時間半を予定しております。
12月12日（土） 弘前大学にて成果報告会	民具保存・活用についての企画について、プレゼンテーションします。

全日程に参加できない学生については、一部参加も可能です。

地(知)の拠点
弘前大学の「青森ブランドの価値を創る地域人材の育成」は平成26年度の文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択されました。

■ 弘前大学ダイバーシティワークショップ チラシ

**弘前大学
ダイバーシティ
ワークショップ**

2016年1月22日（金）18:00-20:00
@集会所indriya（弘前市大字紙漣町4-6）

性別、国籍、人種、民族、言語、宗教、年齢、障害、性的指向、性別自認、家族のかたち、ライフスタイルなど、多様な人々が弘前大学や地域で暮らしています。グループワークを通じて、多様な人々を含むひとりひとりにとって学びやすく働きやすい弘前大学、暮らしやすい地域づくりについて一緒に考えてみませんか。

**参加無料
託児付**
託児をご希望の方は1/14（水）までに申込みください。

対象・定員／テーマに関心のある地域住民、弘前大学生・教職員30名程度
主催／弘前大学
申込・問合せ／弘前大学COC推進室（担当：野口）
Phone 0172-39-3864 Fax 0172-39-3309
メールでのお申込みはメールフォーム（下記URL）から
<http://cochirosaki-u.ac.jp/>
弘前大学男女共同参画推進室（担当：山下）
Phone 0172-39-3888 Fax 0172-39-3889
Email equality@hirosaki-u.ac.jp

HIROSAKI UNIVERSITY
文部科学省 地(知)の拠点
男女共同参画 推進協議会

■ 弘前のオトとモノ チラシ

地(知)の拠点 弘前大学 地域教育プロジェクト vol.4

弘前 オトとモノ

2016.2.7 [Sun]
13:00-17:00
(12:30 弘前大学正門前集合)

スペースデネガ
【弘前市上瓦町11-2】

参加費無料 要事前申込 [2/1まで]

講師 今田 匡彦
(弘前大学教育学部教授・音楽教育学者・音楽家)
高橋 憲人 (弘前大学大学院地域社会研究科1年)

主催 国立大学法人弘前大学
【問合せ・申込先】 弘前大学COC推進室(西村)
TEL 0172-39-3863 / k-nishi@hirosaki-u.ac.jp

プロジェクト概要



普段、当たり前のごとして看過している、暮らしの中のオトとモノに着目し、そもそも音楽とは何なのか、工芸とは何なのかをワークショップ形式で体験的に捉え直します。

日々の暮らしの中から立ち現れる〈音楽〉と〈工芸〉の存在に気づく体験は、参加者の皆さんに音楽を聴くための耳、工芸を観るための眼を開かせるはずで、芸術に興味のある方、新しい地域おこしの形を模索したい方、創造的な職業への就職を希望する方の参加を歓迎します。なんとなく興味のある方の参加も大歓迎です。

■ 若手社会人×弘大生～つながるトーク～ チラシ

若手社会人×弘大生 ～つながるトーク～



弘前銀行 営業担当 福士 智恵
営業先が弘大弘大生の就職先を支援

平川市役所 企画財政課 成田 隼輝
小規模自治体の仕事の魅力伝えたい

弘前航空電子御 人事担当 工藤 恭平
弘大生協との連携も積極的に展開

起業家 (ごさん刺し) 向島 優子
海外出身(岩手県) 洋装販売業 「ごさん刺し」の新たな取り組み

弘前森ダイワツ モーターズ 営業担当 三上 良史
大学院時代は地域振興にも着手

J/A相馬村 広報担当 澤田 雄
弘前市地域おこし協力隊 リポート編纂会スタッフも経験

弘前市役所 市民協働政策課 佐々木 聡理
1%事業、弘大岡初の特会 活性化等を担当

若手社会人との交流を通して卒業後のイメージをふくらませてみよう!

平成27年 11月19日(木) 18:30～20:30

開催場所: cafe&juice 東命所 indriya 弘前市延徳町4-6 (弘大から徒歩5分)
参加費: 1,000円(食費代込み)
申込先: 学生就職支援センター ※先着15名
TEL: 0172-39-3129
E-mail: scc@hirosaki-u.ac.jp

主催: 弘前大学 地(知)の拠点

学部・研究科	学科・課程	年
学籍番号		
氏名		
携帯番号		

※キリトリ線 申し込み用紙

■ 弘前大学起業家塾 チラシ

第1回

弘前大学
塾生大募集!
地(知)の拠点

起 業 家 塾



本気で起業を目指すあなたを
弘大が全力でバックアップ!

<対象者>
学生
若手研究者
若手経営者

受講料
無料

2015年 **7月30日** 木 17:00-18:00

スタート 会場：弘前大学総合教育棟 2階大会議室

第1回 キックオフセミナー

「事業構築必勝戦略のコツ
～IoT×AIで未知の領域へ～」

<講師> 株式会社 フォーテック 代表取締役社長
国立大学法人弘前大学 研究戦略アドバイザー

石田 正樹氏

～講師プロフィール～
新事業や新規市場の取り組みで、30年以上新事業構築に関わり、すべてに成果を出している起業のスペシャリスト。もしもネットラインでは人工知能 (AI) を活用した自動販売システムを導入し、事業開始2年で黒字化に成功。富士ソフト株式会社 (東証1部) では、組織改革等を行い、新規事業部設立後3年で売上15億円を達成するなど業績の持ち主。近年、人工知能 (AI) を活用したビジネス構築を進めており、7月からIoT特許に詳しいAIサービス会社の設立準備中。

～今後の予定 (全6回)～ 豊富な経験を備えた超実力派講師に現在交渉中 御期待下さい!!

第2回 (9月9日)	「イノベーション論」 「アントレプレナーシップについて」 など
第3回 (11月9日)	「リーダートレーニング」 「リーダーシップ論」 など
第4回 (12月9日)	「ベンチャー起業論」 「ベンチャーファイナンス論」 など
第5回 (1月9日)	「経営戦略論」 「イノベーション創出論」 「マーケティング戦略論」 など
第6回 (2月9日)	「創業と生き残りをかけて」 「対話型イノベーション: 実現に向けて」 「ビジネスコンテスト」 など

主 催：国立大学法人弘前大学 (研究・イノベーション推進機構)
共 催：弘前市・公益財団法人2.1あもり産業総合支援センター
弘前商工会議所・ひろさき産学連携プラットフォーム
フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
後 援：青森県

募集人数 40名

当日参加OK!

メールまたは電話にて
事前にお申し込み下さい

お問い合わせ
お申し込み先

国立大学法人弘前大学 研究推進部 研究推進課 産学連携推進グループ
TEL: 0172-39-3912 担当: 山本 jmj3907@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学

第2回

第2回 弘前大学
地(知)の拠点

起 業 家 塾

(全6回)

ビジネスコンテスト開催決定

塾生は本塾主催のビジネスコンテストにエントリー出来ます。
優勝者には豪華賞品及びひろホ弘大レンタルラボを1年間無償貸与。

弘前大学起業家塾第2回目は、大好評の第1回目よりさらにパワーアップ!
現在大活躍中の講師を招き、起業を強力にサポートいたします。
また、弘前大学起業家塾のファイナルイベントとしてビジネスコンテストの開催が決定しました。
ファシリテーターのもと、参加者全員が自ら考え、解決し、プレゼンテーション能力を養成する場を提供するとともに、新たなビジネスプランの発掘とイノベーション創出のきっかけを弘前大学から発信してまいります。
メール又は会場にて、エントリー受付いたしますので、奮って御参加下さい!

第2回セミナーも充実した講師陣をラインナップ! 受講料無料です!

「ビジネス書には決して載ってないけど
マーケティングで本当に理解すべき本質論」

<講 師> 四元 正弘 先生

～講師プロフィール～
1994年東京大学工学部卒業。サントリー (株) を経て、1997年に電通に入社。電通講師・研究主筆としてメディアビジネス分野の消費者心理分析、エンタテインメントマーケティングに従事。2013年に電通を退社し、個人事業主としてメディア。また同年10月から12月あもり産業総合支援センターにてプロダクトライフサイクルのマーケティング・サポートに従事。専門領域は、消費者心理・動向分析、地域ブランド、「デジタルガバナンス」など多岐多岐。

「イノベーションと
アントレプレナーシップ」

<講 師> 荒磯 恒久 先生

～講師プロフィール～
1970年北海道大学大学院工学研究科修士 (理学博士)。北海道大学における産学連携の第一人者として数々の事業に携わる。2015年4月より現職にて文化芸術事業「創発型イノベーション」推進プロジェクト (主幹) を担当。2015年1月経産省主催「Innovator's Square」を設立。現在イノベーション推進を積極的に行っている人材育成を目的とした活動中。専門は生物物理学。

まだ間に合う! 塾生募集中

募集人数 **100名**

今からの参加もOK

※ 講演後に荒磯講師による個別相談会開催します。お気軽に面相談下さい!!

2015年 10月7日 水 18:00-20:00

会場：弘前大学総合教育棟3階 306講義室

お問い合わせ
お申し込み先

国立大学法人弘前大学 研究推進部 研究推進課 産学連携推進グループ 担当: 山本
E-mail: jmj3907@hirosaki-u.ac.jp
TEL: 0172-39-3912

メールまたはお電話にて
事前にお申し込み下さい

第5回

第5回 弘前大学 2015年

起業家塾 **12月22日 火** **18:00-20:00**

会場：弘前大学総合教育棟 406講義室

受講料は無料です

（全6回）

起業家セミナーは今回が最後！

対象者：学生、院生、若手研究者、若手経営者

「イノベーションの起こし方」

<講師> 松島 克守先生
 先端工学研究所 代表、東京大学名誉教授

<プロフィール> 東北大学卒、計研、ベルリン工大、日本IBM、ブライソワーターハウスを経て、99年より東京大学工学系研究科教授として技術経営戦略学専攻（MOT）の創設に貢献。同大学にて総合研究機構・機構長、イノベーション政策センター長等を歴任し、09年より現職。機関的視点で、研究プロジェクト、研究会、勉強会等を主宰している。

もう1名スペシャルゲスト（世界的ブランドのグローバルカンパニー）によるセミナーを予定しております。

次回（平成28年1月25日）最終回（第6回）で開催 **ビジネスコンテスト** 書類審査通過者発表！

主催：弘前大学（研究・イノベーション推進機構）
 共催：フューチャーベンチャーキャピタル株式会社、青森県中小企業団体中央会、弘前市、弘前商工会議所、公益財団法人2.1おおもり産業総合支援センター、ひろさき産学官連携フォーラム

後援：青森県

国立大学法人弘前大学 研究・イノベーション推進機構
 研究推進部 研究推進課 産学連携推進グループ
 TEL：0172-39-3912 担当：山本 im3907@hirosaki-u.ac.jp

メールまたはお電話にて事前にお申込み下さい

弘前大学

第6回

第6回 弘前大学 2016年

起業家塾 **1月25日 月** **18:00~20:10**

会場：弘前大学総合教育棟 4階405講義室

ビジネスコンテスト開催
 審査通過者9グループによるビジネスプランのプレゼンテーションで優秀者を決定します。

起業家の卵たちによる最終プレゼンは必聴の価値あり！
 未エントリーの方も奮ってご参加ください！

特別講演開催！！ 田村 真理子 講師による特別講演是非御参加下さい！！

<講師> 田村 真理子 先生
 日本ベンチャー学会事務局長

<プロフィール> 日本経済新聞社、日経BP社を経て、日本ベンチャー学会事務局長、早稲田大学アントレプレナーズ研究会理事、早稲田大学女子学生起業家交流会長、経済産業省、文部科学省等の政府委員等に就任。主にベンチャー企業や起業家に関する調査・取材を手掛けたから、事業計画や事業計画、キャリアアクリイト等を大学で担当している。

ビジネスコンテスト 審査員

日本ベンチャー学会 事務局長	田村 真理子 氏
フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 投資部次長	石村 雄 氏
弘前大学 研究・イノベーション推進機構 機構アドバイザー（インターフロンティア株式会社 代表取締役社長）	藤田 雅人 氏
弘前大学 研究・イノベーション推進機構 機構アドバイザー（株式会社フォーテック 代表取締役社長）	石田 正樹 氏
弘前大学 副学長・理事（研究担当）	給倉 隆彦 氏
弘前大学 人文学部 教授	森 悠寛 氏
弘前大学 研究・イノベーション推進機構 副学長（研究担当）	村下 光一 氏
弘前大学 研究・イノベーション推進機構 研究推進部長	山崎 淳一郎 氏

主催：弘前大学（研究・イノベーション推進機構）
 共催：フューチャーベンチャーキャピタル株式会社、弘前市、弘前商工会議所、公益財団法人2.1おおもり産業総合支援センター、青森県中小企業団体中央会、ひろさき産学官連携フォーラム

後援：青森県

国立大学法人弘前大学 研究・イノベーション推進機構
 研究推進部 研究推進課 産学連携推進グループ
 TEL：0172-39-3912 担当：山本 Mail：jm3907@hirosaki-u.ac.jp

メールまたはお電話にて事前にお申込み下さい

弘前大学

平成26年度採択 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」
青森ブランドの価値を創る地域人財の育成
平成27年度 事業成果報告書

発行日 平成28年4月

編集・発行 国立大学法人弘前大学 COC推進室
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
TEL 0172-39-3305 / 3306 FAX 0172-39-3309
E-mail coc@hirosaki-u.ac.jp
Web <http://coc.hirosaki-u.ac.jp>



文部科学省

地(知)の拠点



HIROSAKI
UNIVERSITY